

検尿って
なに？

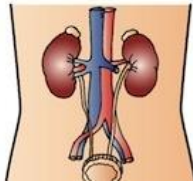


尿を検査して、腎臓の働きと腎臓病や糖尿病になっていないかを調べます。



腎臓ってどこにある？

腎臓は、背骨の両側に左右に一個ずつあります。



- ・大きさ→にぎりこぶしより少し大きいぐらい
- ・形 →ソラマメに似ている
- ・色 →暗い赤色

腎臓の働きは？

腎臓は、血液のクリーニング屋さん。送られてくる血液の中から、いらなくなったもの（古くなって役に立たなくなったもの、摂りすぎた塩分、糖分など）を取り除いて尿をつくります。

尿検査でわかることは？

尿に血液や蛋白、糖が混じっていないかを調べます。尿の 98%は水分ですが、残りの 2%のなかに体で使われなくなった成分が少しずつ含まれています。腎臓の働きが悪くなると、体に必要なものまで尿に混じって出てしまうので、尿検査はとても大切なのです。

【尿検査の検査項目と疑われる病気】

蛋白（タンパク）：蛋白は基本的にゴミではありませんので、本来は腎臓できれいに濾し取られて、再び血液中にもどります。蛋白尿は、生理的蛋白尿（運動後・入浴後・発熱時などに出る事があります。）と病的蛋白尿に分類されます。

判定	疑われる病気
(-)	正常
(±) (+)	腎炎・ネフローゼ症候群・膠原病・尿管、膀胱、尿道の炎症 など

糖：腎臓の機能そのものが正常でも濾し取る血液に含まれる糖の成分が多ければ、当然、濾し取ったあとの尿にも糖分が含まれます。尿糖検査だけで糖尿病と診断することはできないので、さらに血液検査などが必要です。

判定	疑われる病気
(-)	正常
(±) (+)	糖尿病・膵炎・甲状腺機能亢進症・重篤な肝障害 など

潜血：通常は尿中に血液は混じりません。しかし、腎臓から尿管、膀胱から尿道から出血があると、尿中に血液が混じるようになります。

判定	疑われる病気
(-)	正常
(±) (+)	膀胱炎・尿道の炎症、結石、腫瘍・ヘモグロビン尿を伴う疾患 など



尿検査で異常が出たときに

異常が出たら、あまり心配しすぎずに、まずはかかりつけ医へ受診されることをお勧めします。

尿検査は簡便な検査である反面、過労や過度の運動などでも異常が見られる項目もあります。